



関東中央病院 Memories 思い出のアルバム No.10

このシリーズは、平成5年（1993年）1月から、「緑のひろば」で12回にわたって連載された記事の再掲載です。

現在、3～6階の大部屋の病床にはカード式テレビを備え付けておりますので、入院患者さんはある程度自由にテレビを見ることが出来ます。

右の写真は旧西病棟一階渡り廊下ホールにあった共用テレビです。面会時間の終わる午後八時になると守衛がやってきて、伝統の巨人阪神戦がどんなに白熱していても電源を切ってしまう。しかも、テレビがぴったり納まる木製のカバーをかけて、その上に鎖を巻き、カギを掛けていたそうです。



▲旧西病棟一階渡り廊下ホールでのテレビ観戦



▲玄関前ロータリーでの撮影風景、なつかしの主役達

テレビで欠かせないものはドラマ。ドラマで欠かせないものは撮影です。当院は正面玄関前が広いことや、日活や東宝の撮影所に近いこと、また生田スタジオや緑山スタジオと都心との間に位置することから、撮影依頼が多々あります。昭和45年には植木等、馬淵春子が日本テレビのドラマ撮影で来院し、夏木陽介、林与一が映画撮影で来院しています。

また、今年（平成5年）話題になった「高校教師」で真田広之が、「愛するということ」で小泉今日子が来院しました。撮影はなるべく患者さんにご迷惑の及ばない範囲で行っておりますが、もし撮影に遭遇した場合にはご協力をお願いします。

（平成5年10月号掲載）



▲小泉今日子、緒形直人、石橋保の面々

◆次回は平成26年2月号に掲載する予定です。